

## 『生かすお方に生かされるまま～「子ども月間」に際して』 吉田真司

「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのよ  
うな者たちのものである」(マルコ 10:14)

ある教会学校研修会で体験したことを思い出します。講師が参加者に言いました。  
「皆さん、床に寝そべて下さい」と。「何をやるのだろうか?」と興味深くして皆床  
に身を伏せました。すると講師が「はい、それが赤ちゃんのしている世界です」と。  
わたしは「ハッ」としました。そしてその世界観を忘れていた自分に気づかされま  
した。人として赤ん坊から幼児になり、児童になり、少年少女になり、青年になり、  
壮年になる、そういうプロセスを歩む中で、人は自分の力で生きて行く術を身に着  
けていきます。それが一般的には成長と呼ばれます。しかしそれと共に大切な何か  
を置き去りにしてきた気がするのも確か。それは命の創造主に対する全幅の信頼(生  
かすお方に生かされるまま)です。親の腕の中で安心してすやすやと眠っている赤ん  
坊の姿がそれを映し出します。

神学者ユルゲン・モルトマンは次のように言います。「空の鳥が空気を必要とす  
るように、魚が水を必要とするように、わたしたち人間はみな、互いに受け入れら  
れることを必要とします」と。誰しも経験がある「幼な子の世界」、その時の「受け  
入れられた」安心感、両親の腕に抱かれ、また背におぶられた安心感、それを思い  
出すとき、そこに「神の国」が見えてくるのです。イエス様は「子供たちを抱き上  
げ、手を置いて祝福され」(マルコ10:16)ました。イエス様に会うとき、私たち  
の心を縛っているもの、それは自分を受け入れきれない思いとか、卑下する思いと  
か、その「ある(存在する)」ことを否定してしまう思いから解放されます。私たち  
は皆「神の子ども」です。そしてその事実気づかせ、父なる神様のもとに立ち帰  
ること、駆け寄らせて下さるのがイエス様です。教会とは「キリストの体」と呼ば  
れます。幼な子たちを抱きかかえ祝福されるそのキリストの御腕のような働きを、  
キリストの深い愛に基づいた関係性を築くものでありたいと思います。

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00～10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40～12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30～10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、		青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30～9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30～12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00～12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30～3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>